

## 豪ドル、RBA 声明文に注目

- ◆豪ドル、7日の豪準備銀行(RBA)理事会声明文に注目
- ◆NSW州首相は経済再開を楽観視も医療関係者は早期再開を疑問視
- ◆ZAR、大幅に買い戻されたものの、国内でのポジティブ要素は少ない

### 予想レンジ

豪ドル円 78.00-83.00 円

南ア・ランド円 7.10-7.80 円

### 9月6日週の展望

豪ドルはRBA次第となるか。7日にRBA理事会が開かれるが、豪ドルは結果次第で大きく動く可能性が高い。今週発表された4-6月期豪国内総生産(GDP)は市場予想を上回る好結果だったが、7月以後に豪州では新型コロナウイルス感染が急拡大したことから7-9月期の状況は大きく異なる。RBAは8月の理事会で「コロナ感染拡大で回復が妨げられ、GDPは7-9月期に減少すると予想」と表明しているが、それ以降も更に感染拡大が深刻になっている。今回の理事会でどのような声明となるかが注目される。また、先月のRBA声明文では「9月上旬まで週50億豪ドル、その後少なくとも11月中旬まで週40億豪ドルの割合で国債を購入し続ける」としているが、市場では「9月上旬以後も週50億豪ドルの国債購入を継続する可能性」に対する思惑も台頭しており、声明文の内容に注目が集まる。なお、理事会後の8日と9日にデベルRBA副総裁の講演が予定されている。また、ウイルスの感染状況にも引き続き注意が必要だ。ニューサウスウェールズ(NSW)州での感染拡大が深刻だが、今週もベレジクランNSW首相は州内でのワクチン接種率の高まりとともに、「10月下旬に多くの規制が緩和され、正常化の道へ戻る」と発言した。ただ、多くの医療関係者は首相があまりにも楽観的なことに疑問を呈している。今後の感染状況次第で、再びNSW州が厳格なロックダウンに戻る可能性もあり、ウイルス感染状況からは目が離せない。

南アフリカ・ランド(ZAR)の上値は限られるか。8月末から米金利の低下とともに急騰したZARだが、いささかスピードも上げ幅も大きいことで深追いは難しいとの声も多い。米金利低下やコモディティ価格の堅調な動きはZARを支える要因となっているが、南ア経済についてはあまりポジティブな要素が見当たらないことには注意したい。7月末から、アルコールの解禁などをはじめ、ロックダウンが緩和されたこともあり、今週発表された8月のABSA製造業PMIは7月の43.5から57.9へと急上昇した。しかし、雇用指数は47.6ポイントから47.1ポイントに低下している。南ア鉄鋼技術産業連盟によると、製造業の雇用は2008年に記録された37.9%よりもさらに悪い35%に低下している。雇用不安が再び治安の乱れ(暴動等)につながるリスクを指摘する声も少なくない。なお、来週は7日に4-6月期GDP、8日に同期経常収支が発表される。GDPは本来ならば注目度が高い指標ではあるが、南アは7月に暴動があったことを重視すれば、4-6月期の指標で市場が反応するのは難しそうだ。

### 8月30日週の回顧

豪ドルは反発した。8月27日に実施されたパウエルFRB議長のジャクソンホール会議の講演が若干ハト派だったこともあり、ドル売り・豪ドル買いが優勢となった。4-6月期豪GDPが前期比+0.7%、前年同期比+9.6%と、それぞれ予想の+0.5%と+9.2%を上回ったことも支えとなった。

ZARも対ドル、対円ともに先週大幅に上昇した。豪ドル同様にFRB議長の講演後に米金利が低下したことや、コモディティ価格が底堅い動きを見せたことから大きく値を上げた。(了)